

令和七年度企画展

春風駘蕩

—頼 春風の生涯—

国重要文化財 竹原・春風館(玄関)

令和7年

10月25日(土)－11月30日(日)

〔開館時間〕 午前9時30分～午後5時 ※入館は午後4時30分まで

〔休館日〕 月曜日(但し、祝休日は開館し、翌平日が休館)

入館料金／ 一般 300円(240円)、高校生・大学生 220円(180円)

小・中学生 150円(120円) ()内は20名以上の団体料金

※文化の日(11/3)は無料

〔関連行事〕

展示解説会／ 11月1日(土) 11月15日(土) 11月22日(土) いずれも午後1時30分～
解説：当館学芸員

特別講座／ 11月15日(土) 午前11時～

会場：頼山陽史跡資料館ロビー

定員：30名(予約不要・先着順)

講師：館野正美氏(医学思想史研究家・医学博士)

演題：「頼春風の医学」

頼山陽史跡資料館

〒730-0036 広島市中区袋町5-15 TEL/FAX082-298-5051

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/raisanyou/>

〔交通案内〕 ●JR広島駅から20分

広島市都市循環バス(エキまちループ) 101号線「左回り」袋町下車すぐ

広島バス21号線「宇品線」袋町バス停下車すぐ

広電電車「紙屋町経由広島港線」袋町電停下車すぐ

●アストラムライン本通駅下車3分



頼春風肖像(部分) 頼山陽史跡資料館蔵

春風駘蕩

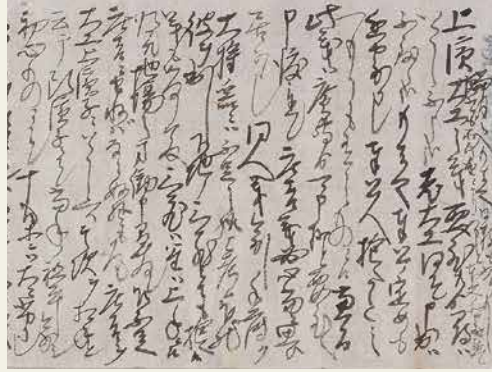
— 頼 春風の生涯 —

- 【展示構成】
- プロローグ 頼春風の人物像
 - 第1章 若き日の頼春風
 - 第2章 竹原の頼春風
 - 幕間 旅する頼春風
 - 第3章 医師頼春風
 - 第4章 文人頼春風
 - エピilogue 晩年の頼春風
- ＜ 春風最後の旅 ＞

頼山陽の叔父頼春風（一七五三～一八二五）は竹原の人。十四歳で大坂に出て医学を学び、二十一歳で竹原へ帰郷して医者を開業しました。その傍ら浜旦那として塩田経営に乗り出し、春風館を建設しました。また、竹原書院という学問所を開設して町の人々の教育に尽力するなど、竹原の町に大きな功績を残した人物です。一方で詩書画を好み、風雅な世界で悠々と生きた文人でもありました。

今年は、頼春風没後二百年に当たります。本展では、竹原・春風館や広島頼家に伝来した資料・作品をひもときながら春風の生涯をたどり、その人物像を浮かび上がらせていきます。

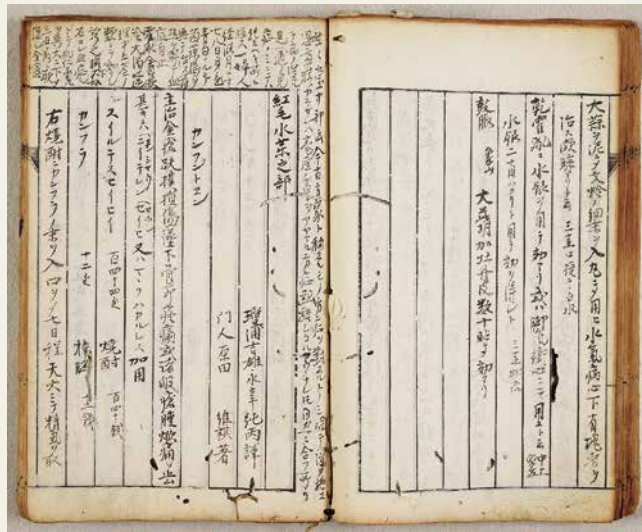
是非ご覧ください。



「濱大工之事」頼春風書簡（頼小園宛）・部分

竹原・春風館蔵

浜大工（塩田の作業責任者）の人選について述べたもの。春風の塩田経営者としての顔をうかがうことができる資料です。



「張珠 乙」頼春風著 竹原・春風館蔵

「張珠」は、春風の30年以上に及ぶ医業の中で得た数多の知見と自らの経験を書き留めた備忘録。大半は薬の処方に関する記事ですが、中には医学関係以外の話題も書き留めてあります。

各地の医師から教わった処方膨大な数で、民間療法についても記しています。晩年にかけては西洋医学（蘭方）の記事が増えています。春風の食欲なまでの学習意欲をうかがうことができます。



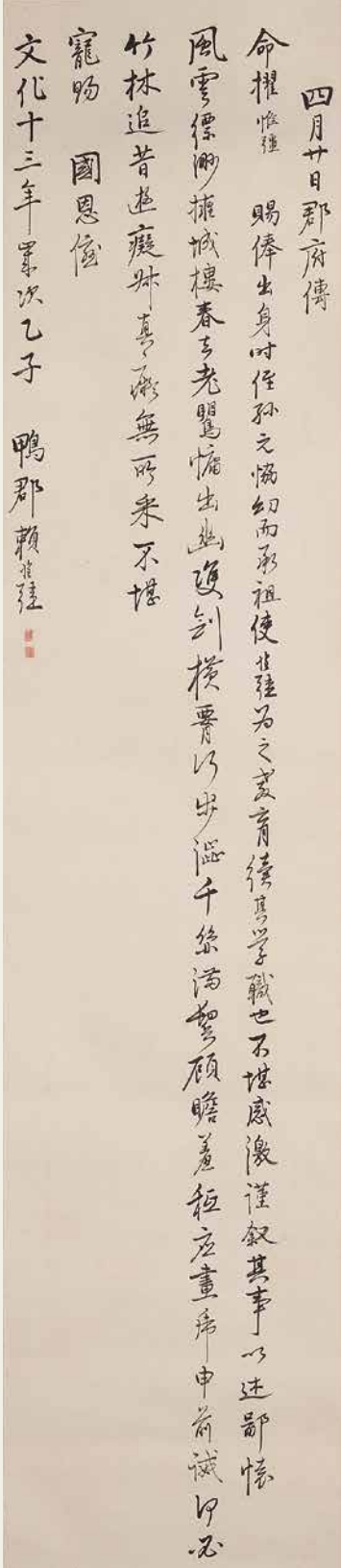
的場山八景（塩電夕烟）頼春風筆 竹原・春風館蔵

的場山から見た竹原の塩田の風景を描いたものです。

春風は、画譜（手本）を臨摸するなど、自分なりのやり方で画を学んでいます。

的場山八景は、竹原にある的場山の四季折々の景色を歌題にしたもので、和歌に詠まれました。

- 「社頭梅花」
- 「雪牧春駒」
- 「入江水蛭」
- 「的場秋月」
- 「神峯深雪」
- 「湊社神燈」
- 「赤石漁船」
- 「塩電夕烟」



「四月廿日郡府伝命擢惟彊賜俸云々」頼春風書 竹原・春風館蔵